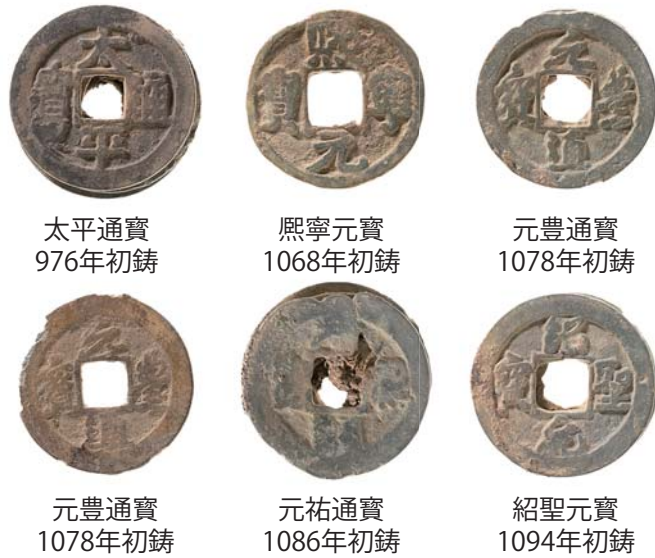


出土した遺物

今回の調査では、丹後型黒色土器や土師器といった地元の土器に加えて、中国製の白磁・青磁、九州産の滑石製石鍋、中国から渡来した銭などの広域に流通する遺物が出土しています。また、湧水が豊富なことから、石組井戸や自然流路から木簡、下駄などの木製品も出土しています。これらの遺物からは、この遺跡を営んだ人々の経済活動の一端をうかがい知ることができます。



太平通寶 976年初鑄
熙寧元寶 1068年初鑄
元豊通寶 1078年初鑄
元豊通寶 1078年初鑄
元祐通寶 1086年初鑄
紹聖元寶 1094年初鑄



写真8 自然流路出土の白磁皿

写真7 柱穴出土の渡来銭



(笹塔婆)

写真9 石組井戸1出土の木簡

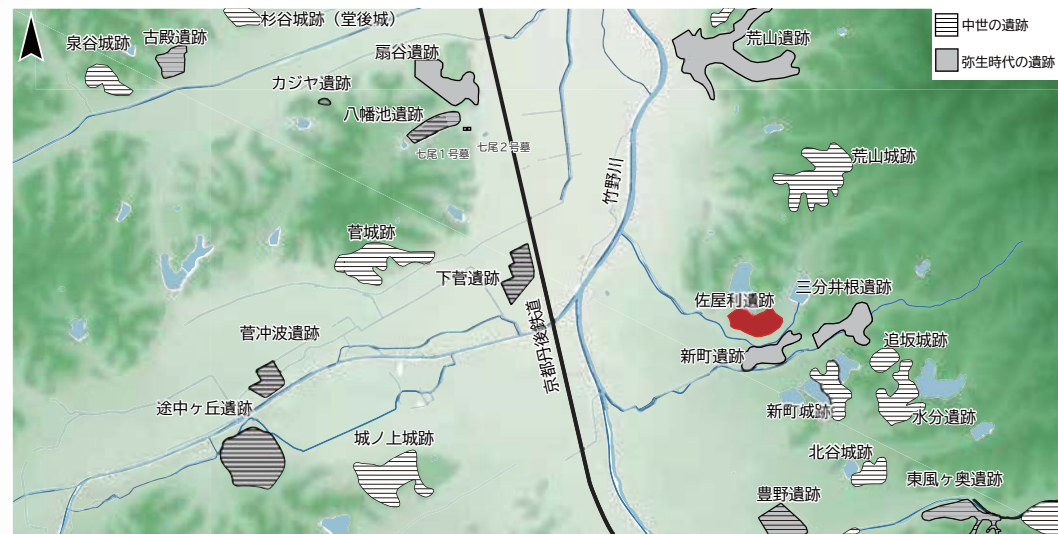


図2 調査地周辺の主な遺跡

まとめ

渡来銭や土師器皿と短刀を用いた祭祀を行っていること、木簡や内面に葉文のある珍しい中国製白磁などが出土すること、立派な石組井戸を持つことなどからも、この地に有力者がいたことがわかります。中郡盆地に臨む丘陵縁辺部を占めることも有力者にふさわしい立地といえるでしょう。

平安時代末頃になると、溝や堀で囲まれた方形居館が各地に現れます。これらの居館を営んだのは、荘園を寄進して荘官の地位を得た開発領主^{かいほつりょうしゅ}もしくは荘園領主が任命した荘官と考えられます。

こうした居館跡は、丹波では福知山市の大内城跡や上ヶ市遺跡などで見つかっていますが、丹後では類例がなく、今回見つけた遺構群は、丹後で初めて発見された居館跡とみられます。

調査地周辺に史料に残る荘園は確認できません。今回の発見は、文献資料だけではわからない丹後の中世社会を考えるうえで重要な成果といえるでしょう。

さ や り 佐屋利遺跡(第2次)

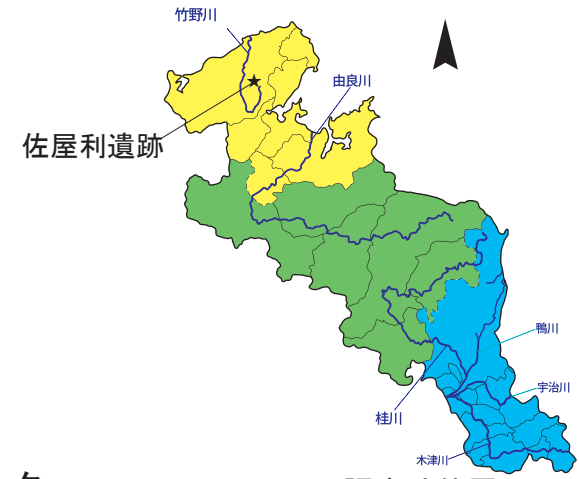


図1 調査地位置図

調査遺跡 佐屋利遺跡
調査場所 京都府京丹後市峰山町荒山
調査期間 令和4年5月6日～令和4年12月末(予定)
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



佐屋利遺跡は中郡盆地に臨む、竹野川右岸の段丘縁辺部に位置する遺跡です。

調査は、国道312号道路新設改良事業に先立って、令和3年度から実施しています。

昨年度の調査では、弥生時代、古墳時代、平安時代から鎌倉時代の遺構・遺物が見つかりました。

今年度の調査では、4区で平安時代から鎌倉時代頃の居館跡とみられる遺構群が丹後地域で初めて見つかりました。

出土遺物には、在地の土器に加えて、中国製陶磁器・渡来銭・滑石製石鍋など、広域に流通するものがあり、中世の経済活動の一端がうかがわれます。

表紙写真：佐屋利遺跡空中写真(南東から)

佐屋利遺跡 4 区の概要

今回の調査では、平安時代から鎌倉時代の居館跡とみられる遺構群が見つかりました。遺構群は、自然流路と幅約8mの溝1、幅約2mの溝2で区画され、東西約60m、南北30m以上の範囲に広がります。

遺構群の中央部にはL字形とコ字形の溝で囲まれた範囲を中心に小さな柱穴が密集しており、数棟の掘立柱建物が何度も建て替えられたと推定されます。柱穴の中には、紐で綴じられた40枚ほどの銭や、短刀と土師器皿を納めたものがあり、建物廃絶時の祭祀に使われたと考えられます。掘立柱建物群の周辺には、石組井戸や木組井戸が設けられています。石組井戸1からは木簡が出土しています。

これらの遺構群が営まれた最盛期は、出土遺物からみて、平安時代末から鎌倉時代と推定されます。



写真1 調査区全景

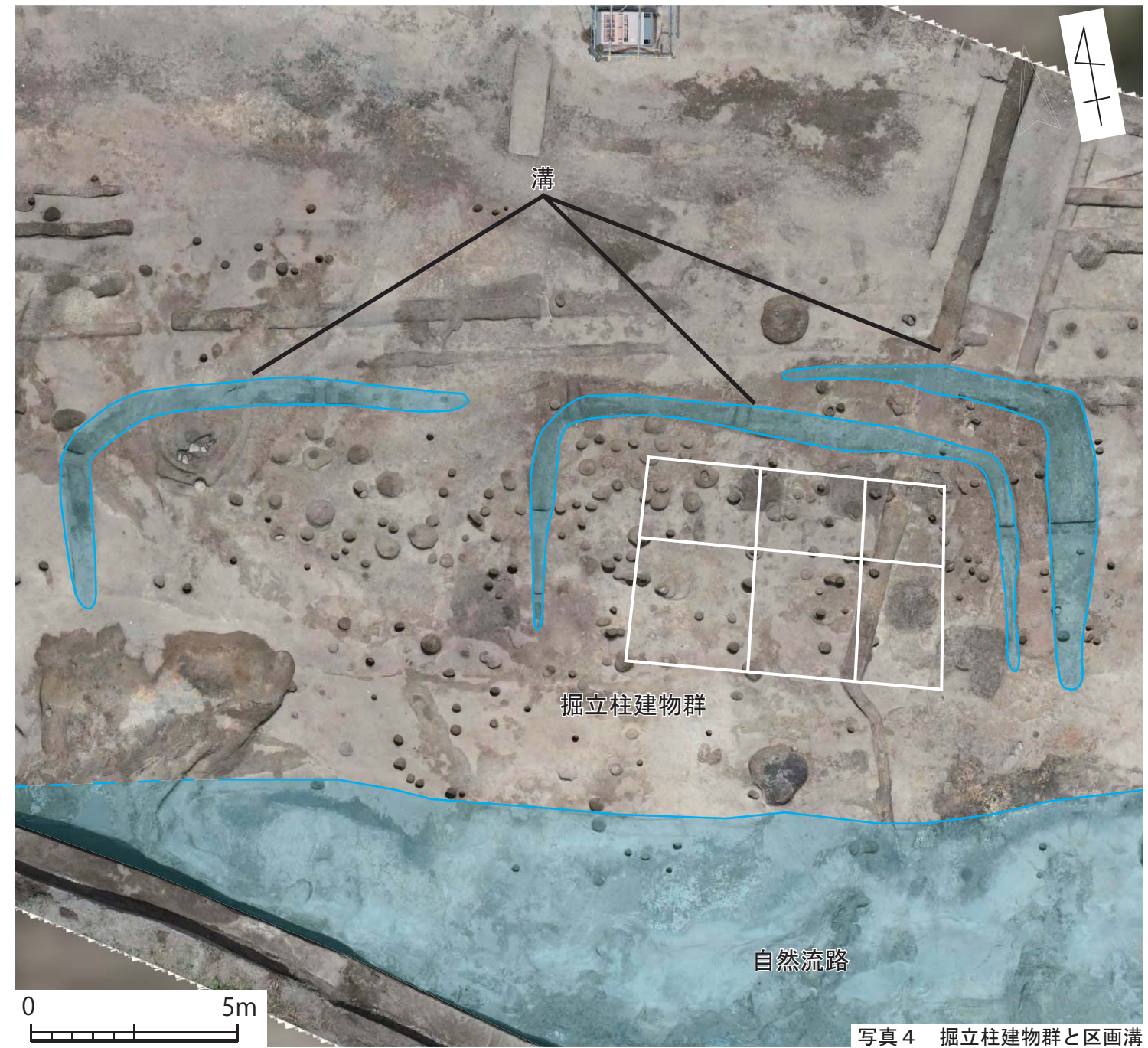


写真4 掘立柱建物群と区画溝



写真2 銭出土状況



写真3 短刀・土師器皿出土状況



写真5 石組井戸1



写真6 石組井戸2